

【用語の説明】

■林班：大字や天然地形等により、面積がおおむね 50ha（ヘクタール）程度となるように設けられた固定的な森林区画の単位です。旧市町村ごとに片隅からアラビア数字により連続番号で示しています。

■小班：林班をさらに 5 ha 程度のまとまりで区分した森林区画の単位で、かな（いろは順）で示しています。

■施業班：所有者別、林況などで設定した一時的な森林区画で、森林簿上の最小単位です。1 林班を通じてアラビア数字による連続番号で示しています。施業班番号に枝番を加えて管理している箇所もあります。

■枝番：施業班の枝番号です。

■森林面積(a)：施業班ごとの森林面積です（単位は a）。なお、森林簿の森林面積は実測結果に基づいた数値ではありません。

$$※ 1 a = 100 m^2 = 0.01 ha$$

■林種：人工林、天然林、竹林、伐採跡地等の区分です。

■樹種：スギ、ヒバ、マツ、広葉樹などの樹木の種類です。

■林齢：森林の年齢です。人工林では、苗木を植栽した年を 1 年生とし、以後 2 年生、3 年生と数えます。

- ・林種、面積（a）、樹種、林齢については、施業班を構成する主な林種を「1」、残りの林種を「2」を付して表記しています（例：林種 1、林種 2 など）。

■山地災害危険地区：集中豪雨等で山腹崩壊、土石流、地すべり等が発生する恐れのある山腹面や溪流等を、林野庁が定める調査要領に基づき、判定して整理したものです。

（1）山腹崩壊危険地区：山腹崩壊が発生する恐れのある山腹斜面

（2）崩壊土砂流出危険地区：土石流災害が発生する恐れのある溪流

（3）地すべり危険地区：地すべり性の災害が発生する恐れのあるもの